

# 中山間地域の振興に関する 提言書



令和4年7月  
相模原市緑区区民会議

## はじめに

相模原市緑区は、多くの魅力や特長があります。東部には工業や商業、業務機能などが集積し、都市的な要素があります。西部には美しい山なみや湖・川など豊かな自然が残されています。

そこで緑区の目指す姿を「実る緑区」としました。「実る緑区」を理念に掲げ、都市と自然がつながり合うまちを目指して一歩ずつ前進しています。なお、緑区は市域の約77%を占める、本市の中で最も広い面積を有しています。

緑区にある個別具体的な魅力や強みを例示します。相模川や道志川をはじめとする清流、津久井湖、相模湖などの水資源や、丹沢大山国定公園、県立陣馬相模湖自然公園などの広大な森林が広がる美しい自然資源があります。また、小原宿本陣や藤野芸術の家、民間テーマパークなどの歴史・文化資源もあります。さらにキャンプ場など自然とのふれあいの場が多く整備されています。ここで記したのは一部です。もっと多くの個別具体的な魅力や強みがあります。

上記のように多様な魅力や特長がある一方で、緑区の中山間地域においては、他の地域より人口減少が速く進行しています。その結果、人口減少を起因とした問題が登場しています。そこで、地域資源を活用した地域コミュニティの維持・強化、移住・定住の促進や関係人口・交流人口の拡大など、地域の特性を踏まえた地域振興策を推進していくことが求められています。

第6期緑区区民会議では、第5期緑区区民会議で答申し、相模原市で策定した緑区基本計画に定められている中山間地域の振興に焦点を当て、緑区の特性を活かした施策案について検討しました。

この提言内容が緑区の地域活性化の一助となれば幸いです。

最後に、この提言書をまとめるにあたりご協力をいただきました関係者の皆様をはじめ、熱心に議論を賜りました委員の皆様に対し、心より感謝を申し上げます。

令和4年7月

相模原市緑区区民会議  
会長 牧瀬 稔

## 目 次

I 中山間地域の概況	4
II 中山間地域の現状と課題	6
III 中山間地域の振興に向けた提言の基本的な考え方	10
IV 提言	11
V グループワークによる振興策の検討	18
VI 第6期 緑区区民会議委員名簿	25

# I 中山間地域の概況

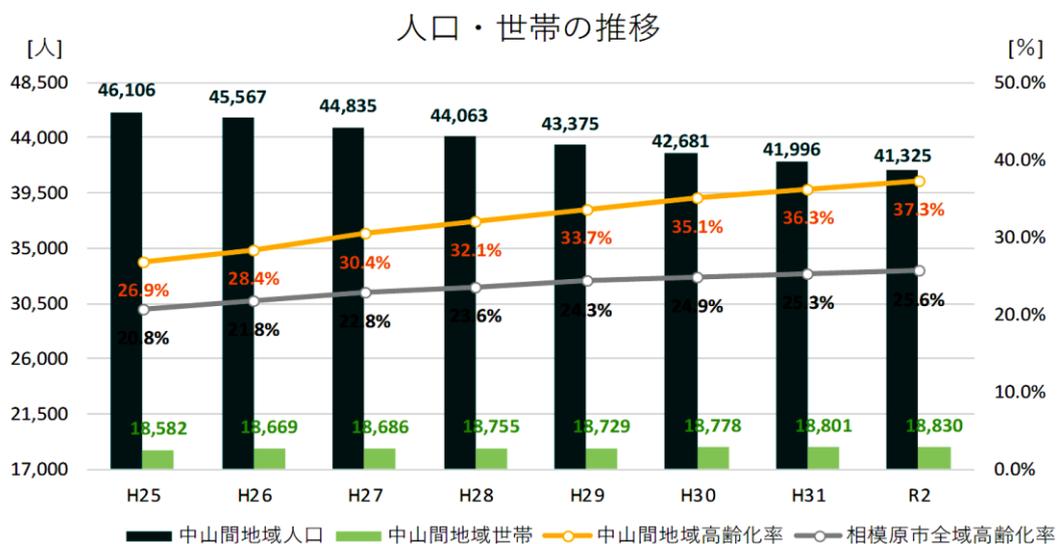
本提言書において、緑区の中山間地域を、津久井・相模湖・藤野の3つの地区として定義します。

緑区の西部に位置する、津久井・相模湖・藤野地区は、山林や農地、湖、河川、里山など多く、自然豊かな水源地であり、自然と調和したまちづくりが進められています。また、観光資源にもなる水源地は、地域住民が主体になり、豊富な地域資源と併せて行われる体験・交流型観光に生かされているなど、本市のシティプロモーションを展開する上で、大きな財産となっています。

津久井・相模湖・藤野地区の面積は約 218 平方キロメートルで市域の約 66%を占めます。

人口については減少傾向が続いており、平成25年時点は46,106人でしたが、令和2年には41,325人となり、7年間で約4,800人の減少となっています。

図表 1



出典：住民基本台帳 各年 1月 1日時点

中山間地域の高齢化率は、平成25年時点では26.9%でしたが、令和2年には37.3%になっており高齢化が進行しています。

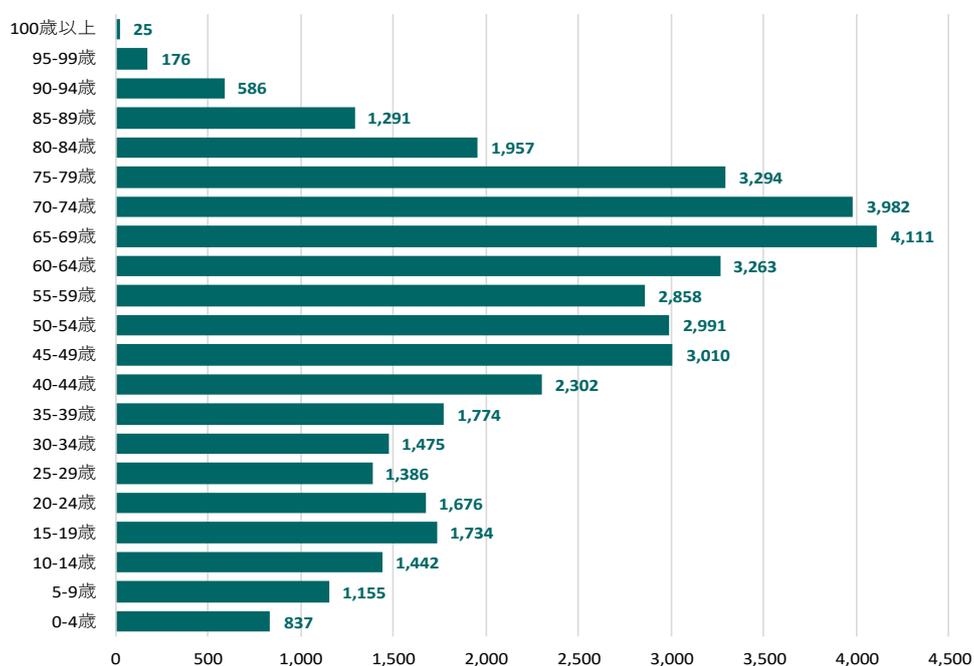
相模原市全体の高齢化率は、平成25年時点が20.8%で、令和2年が25.6%になっており、令和2年時点の中山間地域の高齢化率は市全体より11.7ポイント高い状況にあり、本市の中でも高齢化率が高い地域であ

ることがわかります。

加えて、平成25年からの中山間地域の高齢化率は、7年間で10.4ポイント増加しており、市全体が4.8ポイントの増加であることと比較すると、市全体を大きく上回る速さで中山間地域の高齢化が進行している状況にあります。

中山間地域の世帯数は、平成25年時点では18,582世帯で令和2年においては18,830世帯で、微増となっております。人口減少にも関わらず世帯数が増加する要因の一つとして高齢者のみの世帯や単身世帯の増加も懸念されます。

図表2 中山間地域の年齢別人口（人）



出典：住民基本台帳 令和2年1月1日時点

なお、令和2年の年齢3区分別の人口割合は、年少人口（15歳未満）が約8.3%、生産年齢人口（15歳～64歳）が約54.4%、高齢者人口（65歳以上）が約37.3%となっております。

## Ⅱ 中山間地域の現状と課題

---

### 1 子ども・教育

---

中山間地域では地域と学校のつながりが強く、地域と連携した教育活動が盛んに行われています。このような教育活動の場を通して、学校・家庭・地域の連携をさらに深め、子どもの地域への愛着を育むことができる取組が必要です。

また、藤野地区には、芸術を志向する教育内容が特徴の学校法人が運営する保育園、小中一貫校、高等学校があり、移住・定住人口の増加や地域住民との交流による地域の活性化に寄与しています。

一方で、少子化の進行により小中学校の統廃合などが行われており、今後も児童生徒数の減少が見込まれているなど、地域の実情を踏まえながら、子どもの教育環境の充実を図る必要があります。

### 2 共生・健康

---

本市が平成30年に行った「2015年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計」によると、今後、緑区の高齢化率は更に上昇し、令和47年には、高齢化率が43.0%となる見込みです。特に、中山間地域については、令和47年の高齢化率が53.4%となる見込みで、高齢化の進行により人口の半分以上が高齢者になり、買物や福祉・医療サービス等を利用するための移動が困難となる高齢者が増加することなどが懸念され、交通手段の確保や適切な移動サービスが求められています。

医療においては、医療提供体制の維持・充実が求められている一方で、医療従事者の不足も懸念されています。今後、高齢者の単身世帯の増加も見込まれることから、介護支援のほか、高齢者を地域で見守る体制づくりが求められています。

### 3 安全・安心

---

令和元年東日本台風による災害を踏まえ、中山間地域においては、急傾斜地の崩落や道路の寸断、豪雨時の河川の氾濫など、災害時の被害や孤立が懸念される地域の減災に向けた対策が急務となっています。

また、生活様式の多様化や空き家の増加等による地域コミュニティの希薄化や犯罪の発生が懸念されており、地域コミュニティの強化等による地域ぐるみでの見守りの体制構築が求められています。

## 4 道路・公共交通

---

緑区には、橋本地区、城山地区、津久井地区を結ぶ国道413号、相模湖地区から厚木方面を結ぶ国道412号、相模湖地区・藤野地区と都心や山梨方面を結ぶJR中央本線、中央自動車道、国道20号などが通り、交通の骨格を成しています。

さらに、平成27年の圏央道相模原インターチェンジの開設や津久井広域道路の一部開通により、本地域の広域的なアクセスの利便性が向上し、土地利用転換の可能性を含め、まちづくりの発展性が非常に高くなることが見込まれます。

一方で、中山間地域では今後さらに人口減少・超高齢化が進行する見込みであることから、地域の実情にあった交通ネットワークを維持し、確保するとともに、情報通信技術などの先端技術の動向を捉えた交通手段の検討も求められています。

## 5 産業・観光・商業

---

産業においては、圏央道相模原インターチェンジの開通及び津久井広域道路の一部開通により、交通アクセスの利便性が向上したことで、周辺の産業拠点の更なる活性化が期待されています。一方で、人口減少が進行することにより、地域の活力が失われることや地域コミュニティの維持が難しくなることが懸念されています。

観光においては、緑区の有する豊かな水源地域の自然・歴史・文化などの地域資源を生かした体験・交流型観光などを推進していますが、コロナ禍の影響により観光客の減少がみられます。一方で、都心部の過密がリスクになることなどから、自然豊かな地方への関心やワーケーション、マイクロツーリズムなどへのニーズの高まりがみられます。

商業においては、地域の商店における買物客の減少、個人商店の後継者不足、インターネット通販の発達などによる消費行動の変化への対応といった課題があります。

## 6 自然・環境

---

中山間地域は豊かな水源地をはじめとした自然環境を有しており、その恵まれた自然環境を守り、より魅力的なものとし、次世代につなげていくことが大切です。平成30年度における緑被地面積は、津久井・相模湖・藤野の3地区の合計が相模原市全体の約80%を占めており、いずれの地区におい

ても市全体の10倍以上となっていることから、自然豊かな環境であることがわかります。

こういった中山間地域が持つ豊かな資源を生かし、令和2年に政府が宣言した温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルの実現に寄与することが求められています。

また、農林業においては、担い手の高齢化や後継者不足などによる、休耕地や耕作放棄地の増加、山林の荒廃化が大きな課題になっています。

特に、鳥獣被害の拡大やヤマビル被害の拡大が、生活環境の崩壊につながることも危惧されることから、地域と連携して効果的な対策を講じることが喫緊の課題となっています。

## 7 文化・芸術・スポーツ

---

中山間地域には小原宿本陣をはじめとした伝統的な建造物や伝統行事など特色ある歴史・文化が多く残されています。また、藤野芸術の家などの文化施設があるほか、地域では芸術家やアーティストによる活動が行われていることから、今後、より一層、多様な主体と連携しながら、文化芸術を生かしたにぎわいづくりを推進していく必要があります。

さらに、東京2020オリンピックでは自転車ロードレースのコースが地域内に設定されたほか、相模湖がカナダ代表ボートチームの事前キャンプ地に、宮ヶ瀬湖がカヌースプリントのブラジル代表チームの事前キャンプ地となったことなどにより、スポーツに対する関心の高まりが期待されており、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけとした市民のスポーツ活動の推進やスポーツを通じた交流人口の拡大などが求められています。

## 8 地域コミュニティ・協働

---

中山間地域においては、生活様式の変化、価値観の多様化などに加えて、人口減少の進行や高齢化により、空き家の増加や地域の担い手の減少などが進み、コミュニティ活動が縮小してしまうことなどによって地域住民同士のつながりが低下してしまう懸念があります。

また、現在のような地域コミュニティを維持していくことが難しくなる地域もあり、これまで述べてきた交通ネットワークや医療・介護サービス、買物など、将来の生活への不安につながる課題となっているものと考えられます。

## 9 行政サービス

---

中山間地域の各地区には総合事務所が設置され、まちづくりセンター、保健や福祉、土木などを含めた行政サービスの提供や地域におけるまちづくりの拠点となっていますが、人口減少や市民ニーズの変化などに伴い、公共施設の廃止や集約複合化などが進んでいます。今後は地域の特性を踏まえ、地域の実情や多様性に応じた行政サービスを提供することが必要です。



▲満開の桜と相模湖



▲新緑の津久井湖

## Ⅲ 中山間地域の振興に向けた提言の基本的な考え方

### 1 緑区基本計画を踏まえた検討

中山間地域の振興については、区民会議が答申した内容を踏まえて令和2年3月に策定された緑区基本計画において取組の柱の1つに位置付けられています。

緑区基本計画では、区の目指す姿である「実る緑区～都市と自然がつながり合うまちを目指して～」の実現を図るため、緑区特有の課題である中山間地域の人口減少対策や地域振興を推進し、持続可能なまちづくりを進める必要があります。中山間地域の振興に向けて、緑区の特徴を生かした施策展開の方向性を定めていることから、今回の区民会議としての提言についても緑区基本計画に示されているテーマと3つの施策展開の方向性に基づき、行うこととしました。

**緑区の目指す姿** **実る緑区**～都市と自然がつながり合うまちを目指して～

#### ■ 中山間地域の振興に向けた施策展開のテーマと方向性

**テーマ** ～癒しの交流拠点の創造を目指して～

#### **方向性**

- ① 豊かな人材を活用し、地域コミュニティの充実・強化に取り組みます
- ② 豊かなライフスタイルを提案し、移住を推進します
- ③ 豊かな環境を活用し、新たなビジネススタイルを推進します

### 2 様々な視点から相模原市全体がワンチームで検討・取り組み

中山間地域の振興を実現するには、中山間地域の住民はもとより、都市部の住民等も含めて様々な視点から検討を行い、取り組むことにより、その効果を緑区や相模原市全体に波及させていく必要があります。

そのためには、行政が主体となりつつ、市民や団体、企業、大学等も含め相模原市全体が一致団結しワンチームとなって取り組むことが重要です。区民会議においても中山間地域の住民のほか、都市部の住民、学識経験者や民間事業者など様々な知識や経験を有する委員がそれぞれの立場から意見を出し合い、ワークショップ形式により検討を重ねました。

## IV 提言

緑区の中山間地域においては、市内の他地域に比べて人口減少・少子高齢化が急速に進行しており、今後、地域資源を活用した地域コミュニティの維持・強化、移住・定住の促進など、地域の実情を踏まえた地域振興策を市民や団体、企業、大学等と行政が連携しながら推進していくことが求められています。

このことから、本会議において、中山間地域の振興も取組の柱とする緑区基本計画の答申を行い、令和2年3月に市が策定した緑区基本計画において、反映いただいているところであり、市とともに取組を推進する必要があるものと認識しています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大を機に、都心部における地方移住への関心の高まりなど暮らし方や働き方の価値観が変容していることから、この機を逸することなく、今期の本会議において、中山間地域の振興を重点テーマとして定め、地域の魅力や想定しうる事業などを顕在化するため、検討を重ねました。

東京都心に近接しながらも、豊かな自然環境を有する点を緑区のセールスポイントと捉え、中山間地域の様々な魅力を生かした振興に向けて次のとおり提言します。

### 1 豊かな人材を活用し、地域コミュニティの充実・強化を図る

#### (1) 地域人材及び立地を活かした地域コミュニティの強化

人口減少が進む一方で、組みひも、村歌舞伎、祭りといった地域の伝統文化などの知識を持つ高齢者、芸術や持続可能なまちづくりに関する知見のある市外からの移住者など、様々な知識や技術を持つ地域人材が豊富である。このような知識や技術、地域の伝統を伝えることができる環境を充実させることで、地域人材を活用しながら伝統の継承を図るとともに、世代間交流を含む地域の交流を促進する。

豊かな自然環境を生かし、釣りやキャンプ、サイクリング等のアウトドアに関連したコミュニティを形成することで、地域コミュニティへの参加意識が低い傾向にある若い世代にも参加を促し、結束力の強化を図ることも有効ではないか。また、中山間地域は豊かな自然環境があるものの、公園等が少なく、子どもたちとの交流の場が不足していることから、公園や広場等の確保、活用により、コミュニティの活性化を図ることも検討する必要がある。

周辺の大学との連携等も積極的に行い、地域の活動等に参加を促すことで、若者の視点や外部から見た中山間地域の活性化について、意見を取り入れな

からコミュニティの強化を図ることなども重要である。

#### 提案施策案

- ・地域のモノづくり、伝統・文化行事等への参加と継承を通じた地域コミュニティの強化
- ・豊かな自然環境を生かしたアウトドアに関連したコミュニティの形成による若者を含む多世代の参画や交流人口、関係人口の増加
- ・公園や広場等の確保、活用によるコミュニティの活性化

### (2) 地域内外への情報発信

中山間地域の日常の活動等について、若い世代や、アフターコロナの旅行者等を対象に、SNSを活用した情報発信を行うなど、ターゲットを明確にしたうえで情報を必要な人に届けることで、シビックプライドの醸成や関係人口の創出により、地域への関わりの増加を図る。

また、効率的に関心を引き、理解を深めることが可能な動画コンテンツの配信による情報発信を積極的に行うことも効果的である。

#### 提案施策案

- ・SNS、Youtube、映画等での魅力の発信による地域内の交流の促進や関係人口の創出
- ・地域の情報発信者の発掘や、観光客やテレワーカー、外国人などにも魅力を発信してもらえる仕掛けづくり
- ・公共施設等での情報発信の充実

### (3) 中山間地域特有の産業の活性化による交流の促進

休耕地や地域の人材の活用による農林業の活性化や、野生鳥獣被害の原因である鹿やイノシシといった獣肉をジビエ料理として活用するため、獣肉の加工場を設置して活用を促進するなどの検討を行い、中山間地域特有の産業により地域を活性化させ、交流を促進することも検討していく必要がある。

### 提案施策案

- ・休耕地や地域の人材の活用、野生鳥獣を生かしたジビエ等の産業による1次産業の活性化
- ・地域にいる畑名人やきのご名人といった人材の活用による地域コミュニティの強化

## 2 豊かなライフスタイルを提案し、移住を推進

### (1) 自然とICTが共存するライフスタイルの実践

ICT（情報通信技術）を情報収集のツールに留めず、買い物や医療、農業等の日常生活に近い分野に活用することで、中山間地域の大きな課題のひとつである地域内の交通や防災などの地域課題の解決にICTを積極的に活用する必要がある。

こうした取組を進めるためには、行政が国や企業等と連携しながら、地域の特性、民間事業者のノウハウ等を生かし積極的なICTの利活用を推進する必要がある。

また、区民がICTを活用したライフスタイルを円滑に導入できるよう、小・中学校におけるICT教育の充実等のデジタルデバイド（情報格差）の解消のための施策が必要である。

### 提案施策案

☆行政と民間が連携し、ICTの利活用により暮らしを充実

- ・オンライン診療など家にいながら医療が受けられる環境の整備
- ・農業や交通、防災対策へのICTの活用について、モデルとなるような施策の展開
- ・芸術や外国語分野へのICTの活用

☆ICTのリテラシー（※1）向上やデジタルデバイド（情報格差）の解消のための施策

- ・教育におけるICTの活用の推進
- ・高齢者等がICTの知識を得るための施策

※1 リテラシー…知識や情報を正しく理解し活用できる能力

### (2) 豊かな自然環境と都心からの近さを生かした移住・定住促進策

都心に近接した自然豊かな中山間地域という特性を生かし、日常の暮らしや風土を実際に体験し、ありのままの地域の魅力等を理解することができる

宿泊を伴う短期間の移住体験（お試し移住）の実施や、気軽に農園づくりを楽しむことのできる仕組みづくりを進めることなどが、移住や2地域居住のハードルを下げることにつながり有効である。また、地元産の野菜などの食材を生かしたレシピや特産品を開発することで、若い世代など地域内外の人が地域に関わるきっかけになるとともに、職業のひとつとして選択の幅が広がり、移住・定住や2地域居住の促進につながるものとする。

また、交通面では、中央自動車道、圏央道をはじめ、国道20号、412号、413号が通っていることで交通の骨格をなしており、こうした国道等を結ぶ、山間部の道路の改良や整備など、交通ネットワークの強化も移住・定住促進に必要な要素であるとする。

#### 提案施策案

##### ☆移住や2地域居住等のハードルを下げる施策

- ・2日間程度の宿泊を伴う移住体験
- ・既存の移住体験の受入先増加

##### ☆食の魅力を生かした移住促進など、暮らしを楽しむコンテンツの提供

- ・津久井在来大豆や地域の野菜を生かしたレシピや特産品等の開発
- ・大学との連携によるレシピや特産品等の開発
- ・農園の活用や気軽に農園づくりができるシステムづくり

##### ☆昭和の雰囲気をもそのままに残し生かす取組

### (3) 移住・定住促進に向けた体制及び支援の強化

人口の減少とともに空き家が増加し、その活用が重要であるが、空き家の所有者は売却や貸出を決断しづらい状況にあることから、行政と民間が連携しながら、行政が主体的に空き家の利用や移住・定住を促進する組織体制を整え、取組を行う必要がある。

移住・定住の専門家も含めた協議会等を設置し、空き家だけでなく、空き地等への住居の新築を促すなど、総合的かつ持続可能な施策を検討する必要がある。

また、中山間地域において通学可能な高校が少ないため、東京都との広域連携により、都立高校への通学を実現することができれば、若者の転出人口の抑制につながり、若者の定住促進にも有効である。

#### 提案施策案

- ☆ 空き家の利用促進に向けた支援制度の創設
  - ・ 家財整理費用の補助等
  - ・ 借主と貸主の仲介の充実
- ☆ 移住を進めるための体制強化
  - ・ 専門家も含めた協議会による総合的な施策の検討

### 3 豊かな環境を活用し、新たなビジネススタイルを推進

#### (1) 都心からの距離などを生かしたビジネススタイルの実践

都心からの交通利便性の高さを生かすとともに、リニア中央新幹線の開通による更なる広域交通ネットワークの充実を見据え、ワーケーションの拠点やサテライトオフィスなど、多様な働き方に対応した環境整備を促進することが重要である。

都心に近接していながら、豊かな自然に囲まれている中山間地域で仕事をするという、普段とは違うビジネススタイルを体感してもらうため、湖やキャンプ場、低未利用の公共施設、空き家や、本格運営を開始したテレワーク拠点「森のイノベーションラボ FUJINO」などを活用し、緑区が持つ魅力を生かした個性的な施策を展開することにより、人と企業を引き付け、雇用創出や地域の活性化を狙うことが求められている。

また、新たなビジネススタイルを推進するため、併せて、インターネット環境等の通信インフラの整備に対する支援策が必要である。

#### 提案施策案

- ☆ テレワーク、ワーケーションなど、多様な働き方に対応したワークスペースの確保
  - ・ 湖などの自然の眺望を生かしたカフェ併設ワークスペースなどの設置
  - ・ キャンプ場やアウトドア施設と連携したワークスペースの提供
  - ・ 空き家のシェア、低未利用の公共施設の活用によるコワーキングスペース、シェアオフィス等の整備
  - ・ 「森のイノベーションラボ FUJINO」の活用
  - ・ オリンピック自転車ロードレースの開催地であることを生かし、自転車のシェアなどのサービスを提供することによるワーケーションの促進

- ・農地を有効活用したワーケーション環境の整備
- ☆豊かな自然環境を生かしたオフィスを求める企業等の移転誘致の促進  
(例：渋谷区から富士山麓へ本社移転した企業等あり)
- ☆リニアの開通などを見据え、広域交通ネットワークを生かした新たなビジネススタイルの推進策の検討
- ☆情報通信環境の充実
  - ・キャリア5Gの早期整備促進とローカル5Gの活用
  - ・山や森、湖などでのWi-Fi環境の整備

## (2) パラレルワーク（副業・複業）の推進による地域産業の継承

農林業に就職するために仕事を辞めるというハードルをなくし、パラレルワーク（副業・複業）として農林業に就職することが可能なシステムを作るなど、新規就農を支援することで地域の1次産業の継承を図る。

また、インターネットを通じ、中山間地域で作ったものを全国や世界を対象範囲に販売・広報することで、地域産業の充実を目指す。

### 提案施策案

- ☆在宅勤務やパラレルワーク（副業・複業）、起業の促進など、仕事と生活（子育て等）の調和に資する施策を展開
- ☆効果的なPRの実施
  - ・中山間地域の魅力や取組の地域内外の企業・ワーカーへのPR
  - ・農林業といった中山間地域ならではの仕事のPR
- ☆地元企業と行政の連携による、名物、物産、土産物の開発
  - ・津久井産材等を活用した地産家具の製造販売の促進
  - ・地元食材による名産品の開発

## (3) 地域の魅力を生かした観光振興

緑区は、中央自動車道、圏央道など、広域交通の結節点を成しており、リニア中央新幹線が開通すれば更なる発展が期待できる。こうした広域交通ネットワークを生かした観光客の受け入れ策を積極的に検討する必要がある、例えば、リニア中央新幹線の車両基地を活用して、車両見学を行うことが可能になれば、国内外から多くの来訪者を見込むことができる。

都心に近く自然に恵まれた緑区は、釣り、ハイキング、登山、ゴルフ、ボ

ート、カヌー、キャンプ、サイクリング、各地の祭り、農作物づくり体験、里山体験、郷土芸能など観光資源が豊富であり、これらの資源を活用して観光地としての推進を積極的に行うとともに、これらのコンテンツを磨き上げ、持続可能な産業・商品とできるよう取り組むことが重要である。

また、甲州街道の小原宿、吉野宿、与瀬宿、関野宿などの地域の歴史や、神社・寺院、伝統芸能などを効果的に発信・紹介することで観光客誘致につながる事が可能と考える。そのため、ガイドの育成など、地域の情報発信の強化についても取り組む必要がある。

#### 提案施策案

- ・ リニア中央新幹線の車両基地を活用した車両見学
- ・ 資源を活用した観光地としての推進とコンテンツの磨き上げ
- ・ 地域の歴史などの効果的な発信・紹介
- ・ ガイドの育成など地域の情報発信の強化

## V グループワークによる振興策の検討

区民会議においては、中山間地域の振興に向けた提言を行うため、中山間地域の人口や世帯、交通、公共施設、地域活動、空き家、事業所等の状況について、共有を図ったうえで、委員がグループワーク形式により、中山間地域の振興に向けて検討を行いました。

### 第1回：中山間地域の魅力の抽出（令和3年2月12日）

第1回のグループワークでは、各委員が中山間地域の魅力をあらかじめ考え、グループ内で発表し、さらに意見交換を行いました。

主な魅力の抽出結果は、次のとおりです。

<p><b>(1) 自然</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然、四季の色彩 (森林、山、川、湖、空気、水)</li> <li>・のどか、静けさ</li> <li>・里山</li> <li>・多様性のある生物</li> </ul>	<p><b>(5) 人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への愛着の高い人々</li> <li>・住民同士の絆の深さ</li> <li>・充実したコミュニティ</li> <li>・移住者を温かく迎えてくれる人々</li> </ul>
<p><b>(2) 伝統</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続する祭り、行事</li> <li>・水源地域の歴史と役割</li> </ul>	<p><b>(6) 交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道、高速道路、バス</li> <li>・都心や沿岸部から近距離（都心まで約60kmの距離にありながら、豊かな自然に囲まれている）</li> </ul>
<p><b>(3) 文化・芸術・スポーツ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻、文学、絵本童話作品等</li> <li>・ハイキング</li> <li>・サイクリング</li> <li>・ボート、レガッタ、カヌー</li> <li>・ゴルフ、マレットゴルフ</li> <li>・釣り</li> <li>・登山</li> <li>・その他、都心では経験できない屋外での活動</li> </ul>	<p><b>(7) 施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム</li> <li>・遊園地</li> <li>・温泉</li> <li>・キャンプ場</li> <li>・リニアモーターカー車庫</li> <li>・公園</li> <li>・歴史的建造物 (城跡、宿場町、古道、神社、寺院、古民家等)</li> </ul>
<p><b>(4) 食</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津久井在来大豆</li> <li>・野菜</li> <li>・果物（栗、柚子、柿等）</li> <li>・郷土料理 (麦飯、おたらし、水団等)</li> </ul>	<p><b>(8) 生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に親しみながら送る生活、生き方（子育て環境の良さ等）</li> <li>・戸建てでの生活</li> <li>・自給性の高い生活</li> </ul>

## 第2回：施策の検討（令和3年5月7日）

第2回のグループワークでは、第1回で抽出した中山間地域の魅力を踏まえ、緑区基本計画に示されている3つの施策展開の方向性ごとに、方向性を実現するための理想を設定し、その理想を叶えるために解決しなければならない課題、活用すべき魅力について考えるとともに、誰が主体となり、どのような施策を行う必要があるか検討を行いました。

主な検討結果は、次のとおりです。

### （1）豊かな人材を活用し、地域コミュニティの充実・強化を図る

#### ①理想と課題の抽出

区分	理想	課題
交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口流入による人の増加、交流人口・関係人口の拡大</li> <li>○自治会活動の活性化や防災対策の強化</li> <li>○生涯学習（学びあい）の充実、地域の祭り等の継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少（多ければよいわけではない）</li> <li>●参加意識の低下</li> <li>●地域の交流が不足</li> <li>●伝統行事への参加者不足</li> <li>●公園、広場等の不足</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の情報発信が充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の情報発信が不足</li> <li>●高齢者へ情報が届きにくい</li> </ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業誘致で雇用増</li> <li>○1次産業の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ジビエの処理場がない</li> <li>●農業教育のシステムの不足</li> <li>●マッチングシステムの不足</li> </ul>

#### ②魅力を生かした主な施策

区分	施策案
交流	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然（ハイキング、サイクリング、ボート、カヌー、ゴルフ、釣り、キャンプなども含む）</li> <li>○組みひも、村歌舞伎、演劇、祭りなどの伝統文化</li> <li>○津久井産材の木工などの体験や体験型施設</li> <li>○地域の子どもたちの知恵</li> <li>○遊びのプロ、野草専門家などの人材</li> </ul> <p>【施策案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆地域のモノづくり、伝統・文化行事等への参加と継承を通じた地域コミュニティの強化を図る</li> <li>☆豊かな自然環境を生かした釣りやキャンプ、サイクリング</li> </ul>

交流	<p>等のアウトドアに関連したコミュニティを形成することで、若者を含む多世代の参画や交流人口、関係人口を増加させる</p> <p>☆公園や広場等の確保、活用によりコミュニティの活性化を図る</p>
情報発信	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然（ハイキング、サイクリング、ボート、カヌー、ゴルフ、釣り、キャンプなども含む）</li> <li>○組みひも、村歌舞伎、演劇などの伝統文化</li> <li>○津久井産材の木工などの体験や体験型施設</li> </ul> <p>【施策案】</p> <p>☆SNS、Youtube、映画等により魅力を発信することで、地域内の交流の促進や関係人口の創出を図る</p> <p>☆地域の情報発信者を発掘、観光客やテレワーカー、外国人などにも魅力を発信してもらえる仕掛けづくり</p> <p>☆公共施設等での情報発信の充実を図る</p>
産業	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○シカ、イノシシ、野菜などの自然</li> <li>○地域の高齢者等の知恵（畑名人、きのこ名人、籠づくり名人、箒づくり名人、郷土の歴史や伝統遊びの伝承者等）</li> </ul> <p>【施策案】</p> <p>☆休耕地と地域の人材を活用による1次産業の活性化や野生鳥獣を生かしたジビエ等の産業を興すことで、コミュニティを強化</p>

## （2）豊かなライフスタイルを提案し、移住を推進

### ①理想と課題の抽出

区分	理想	課題
移住	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係人口の拡大と移住促進</li> <li>○2地域居住、週末移住</li> <li>○住居の確保</li> <li>○移住促進の協議会等の設置</li> <li>○都立高校への通学の自由化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口構成（少子高齢化）</li> <li>●人口減少</li> <li>●行政の移住担当部署</li> <li>●空き家が流通していない</li> <li>●特産物が少ない</li> </ul>
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然とICTの共存</li> <li>○地域内の交流が活発</li> <li>○道路の改良や整備、公共交通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交通が不便（特に高齢者の買い物、通院時）</li> <li>●医療や災害への不安</li> </ul>

日常生活	の充実等も含めた交通ネットワークの充実	●行政の ICT 活用不足 ●野生鳥獣やヤマビルの被害
情報発信	○地域の情報発信が充実 ○緑区や地域のことを知ってもらえている	●地域の情報が分からない ●高齢者へ情報が届きにくい

## ②魅力を生かした主な施策

区分	施策案
移住	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○都心からの近さ</li> <li>○農園や、津久井在来大豆、地域の野菜</li> <li>○森林の魅力、山の暮らしや森の活動</li> <li>○昭和の雰囲気</li> <li>○特色のある教育を行う学校</li> </ul> <p>【施策案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆移住や2地域居住等のハードルを下げる施策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2日間程度の宿泊を伴う移住体験</li> <li>・既存の移住体験の受入先増加</li> </ul> </li> <li>☆空き家の利用促進に向けた支援制度の創設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家財整理費用の補助等</li> <li>・借主と貸主の仲介の充実</li> </ul> </li> <li>☆食の魅力を生かした移住促進など、暮らしを楽しむコンテンツの提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・津久井在来大豆や地域の野菜を生かしたレシピや特産品等の開発</li> <li>・大学との連携によるレシピや特産品等の開発</li> <li>・農園の活用や気軽に農園づくりができるシステムづくり</li> </ul> </li> <li>☆昭和の雰囲気をそのままに残し生かす取組</li> <li>☆移住を進めるための体制強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家も含めた協議会による総合的な施策の検討</li> </ul> </li> </ul>
日常生活	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特色のある教育を行う学校</li> <li>○地域の子どもたち</li> </ul> <p>【施策案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆行政と民間が連携し、ICTの利活用により暮らしを充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン診療など家にいながら医療が受けられる環境の整備</li> </ul> </li> </ul>

日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業や交通、防災対策への ICT の活用について、モデルとなるような施策の展開</li> <li>・ 芸術や外国語分野への ICT の活用</li> <li>☆ ICT のリテラシー向上やデジタルデバイド（情報格差）の解消のための施策</li> <li>・ 教育における ICT の活用の推進</li> <li>・ 高齢者等が ICT の知識を得るための施策</li> </ul>
情報発信	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特色のある教育を行う学校</li> <li>○ 地域の子どもたち</li> <li>○ 自然（森林等）</li> </ul> <p>【施策案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ インターネットを活用して地域に情報を発信</li> <li>☆ 地域の情報発信者を発掘</li> <li>☆ 公共施設等での情報発信の充実</li> </ul>

### （3）豊かな環境を活用し、新たなビジネススタイルを推進

#### ①理想と課題の抽出

区分	理想	課題
仕事環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広域交通ネットワークを生かして仕事環境を整備</li> <li>○ 空き家、低未利用の公共施設などのストックの活用によるワークスペースの充実</li> <li>○ 高速通信環境（5G、Wi-Fi など）の充実</li> <li>○ テレワーク、ワーケーション、週末ワーク、在宅勤務などの多様な働き方に対応</li> <li>○ 自然豊かな環境を生かした医療・療養関係の仕事の充実</li> <li>○ ビジネスと子育ての両立の実現</li> <li>○ 起業の機会の増加</li> <li>○ 農業、林業の就労者の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 働く世代の減少、後継者の不足</li> <li>● 業種が限定されてしまう</li> </ul>
製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界に売れる製品がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 名物・特産品が少ない</li> </ul>

②魅力を生かした主な施策

区分	施策案
仕事環境	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然（山や森林、川、湖、キャンプ場など）</li> <li>○安い賃借料と広い土地、建物</li> <li>○通信回線が空いている</li> <li>○広域交通ネットワーク（リニア等）</li> <li>○オリンピック自転車ロードレースの開催</li> </ul> <p>【施策案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆テレワーク、ワーケーションなど、多様な働き方に対応したワークスペースの確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・湖などの自然の眺望を生かした、カフェ併設ワークスペースなどの設置</li> <li>・キャンプ場やアウトドア施設と連携したワークスペースの提供</li> <li>・空き家のシェア、低未利用の公共施設の活用によるコワーキングスペース、シェアオフィス等の整備</li> <li>・オリンピック自転車ロードレースの開催地であることを生かし、自転車のシェアなどのサービスを提供することによるワーケーションの促進</li> <li>・農地を有効活用したワーケーション環境の整備</li> </ul> </li> <li>☆豊かな自然環境を生かしたオフィスを求める企業等の移転誘致の促進（例：渋谷区から富士山麓へ本社移転した企業等あり）</li> <li>☆リニアの開通などを見据え、広域交通ネットワークを生かした新たなビジネススタイルの推進策の検討</li> <li>☆情報通信環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア5Gの早期整備促進とローカル5Gの活用</li> <li>・山や森、湖などでのWi-Fi環境の整備</li> </ul> </li> <li>☆在宅勤務やパラレルワーク（副業・複業）、起業の促進など、仕事と生活（子育て等）の調和に資する施策を展開</li> <li>☆効果的なPRの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域の魅力や取組を、地域内外の企業やワーカーにPR</li> <li>・農林業といった中山間地域ならではの仕事のPR</li> </ul> </li> </ul>

製品	<p>【活用できる魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○林業（津久井産材）</li><li>○農業（野菜等の食材）</li></ul> <p>【施策案】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>☆地元企業と行政の連携による、名物、物産、土産物の開発<ul style="list-style-type: none"><li>・津久井産材等を活用した地産家具の製造販売の促進</li><li>・地元食材による名産品を開発</li></ul></li></ul>
----	---



▲藤野地区の里山

## VI 第6期 緑区区民会議委員名簿

任期：令和2年7月30日～令和4年7月29日

	氏名	所属等	備考
1	牧瀬 稔	学識経験者（関東学院大学）	会長
2	長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	副会長
3	森 誠壽	橋本地区まちづくり会議	
4	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	
5	大参 正人（～R3.4.28）	城山地区まちづくり会議	
	齋藤 信夫（R3.4.29～）	城山地区まちづくり会議	
6	熊谷 弘	津久井地区まちづくり会議	
7	宮野 善三郎	藤野地区まちづくり会議	
8	今井 俊昭（～R3.4.14）	相模原市地区社会福祉協議会緑区連絡会	
	松井 光臣（R3.4.15～）	相模原市地区社会福祉協議会緑区連絡会	
9	中里 浩章	市立小中学校PTA連絡協議会	
10	原 正弘	相模原商工会議所	
11	名久井 孝昭	津久井地域商工会連絡協議会	
12	吉野 賢治	（一社）相模原市観光協会	
13	梅津 賢一	（公社）相模原青年会議所	
14	久保 武史（～R3.12.31）	（公社）津久井青年会議所	
	山崎 勇貴（R4.1.1～）	（公社）津久井青年会議所	
15	佐藤 鉄郎	相模原市既存住宅リフォーム・改築推進協議会	
16	星 和美	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	
17	池田 寛二	法政大学多摩地域交流センター	
18	深谷 信介	東京大学大学院都市デザイン研究室 （ノートルダム清心女子大学）	
19	吉良 奈美乃	公募委員	
20	鈴木 千景	公募委員	
21	森本 誠一	公募委員	
22	山本 篤史	（株）角川アスキー総合研究所	
23	西山 尚孝（～R3.6.17）	相模湖リゾート株式会社	
	早川 優（R3.6.18～）	相模湖リゾート株式会社	
24	高堂 智佳（～R2.10.31）	東日本旅客鉄道株式会社	
	佐藤 賢策（R2.11.1～）	東日本旅客鉄道株式会社	
25	中原 正貴	神奈川つくい農業協同組合	